

(第3種郵便物認可)

盲ろう者に自立の場

視覚と聴覚の両方に

障害がある盲ろう者専用のグループホームが、日本で初めて大阪市天王寺区に開設された。施設内は、各階ごとに床やドアが色分けされるなどの工夫が施され、通訳介助者が24時間体制でサポート。仲間とともに起き、食事をとる、語らう生活の中で入居者は自立への道を進む。

(光長いづみ)

運営主体はNPO法人「視聴覚二重障害者福祉センターすまいる」(門川紳一郎理事長)。グループホームは、利用者が就労や憩い集う事務所から徒歩2分の場所にある。

■ 増えた笑顔

元は立体駐車場だった土地に5階建てを新築。総工費は1億4千万円で、寄付や街頭募金など

日本初 天王寺区に専用グループホーム



NPO運営 24時間サポート

を充てた。

1階はキッチンと食堂、和室。2〜5階が居間や黄緑に塗装された居室(7・58〜8・05平方

米)になる。各階の床とドアは弱視者のためにオレフィンや黄緑に塗装され、室内には来訪者など外部位置に男女のマークが大

きく立体表示され、「かつて見えてた人は『懐かしい』、見えていなかった人は『こんなマークだったんだ』と喜んでる」と、法人事務局長の石塚由美子さん(58)は笑う。

3月から入居が始まり、全10室中8室が埋まっている。石塚さんによると、入居者に「笑顔が増えた」とか。「実家だと、両親の様子が気になるし、子ども扱いされる。ここでは、介助者を通じて思う存分、意見が言えるからでしょう」と話す。

ドアは塗装され、トイレや風呂のマークが大きく立体表示された居室エリアを案内する石塚さんと石塚さんは願う。

「盲ろう者が当たり前のように暮らしてほしい。全ての人が同じように暮らすことができる温かい町になれば」と石塚さんは願う。

■ 当たり前前に

グループホームは12年越しの夢だった。

「みんなと一緒に暮らせた方がいいなあ」。自身も盲ろう者である門川理事長がすまいるを設立したのが、1999年。活動を続ける中で、利用者から「自立できる場」としてグループホーム建設の声が上がるようになった。親も年を取り、将来への不安も切実だった。

資金集めと並行して土地探しも行ったが、直面したのが建設予定地周辺の住民との調整。グループホームは、事務所から近いとはいえ、JR・地下鉄「鶴橋駅」から徒歩5分と、人も車も往来が多いエリアだ。

事故を心配する声に、外出時には介助者と共に行動することで理解を得た。